

2025年12月20日発行

大町山岳博物館友の会 第204号

# ゆきつばき通信



行事のご案内（友の会主催事業）

## 冬の自然観察会 スノーシューで行く冬の居谷里

冬の居谷里は“湿原”がつかない。雪に覆われ一面の雪原が広がる・・・と言いたいが樹木がかなり入り込んでいる。湿原の輪廻としてはある程度仕方のないところでもある。

今回は周辺の山地も少し含めてスノーシューで歩きながら、冬の居谷里で冬の自然観察会を行う。木々は春に向かって冬芽を準備して休んではいない。冬の鳥も木々を渡り、動物たちは雪面に足跡を残していく。

- 《期 日》 2026年2月15日（日） ※荒天中止
- 《時 間》 午前8時30分（大町市役所駐車場集合）～午後12時30分（大町市役所 到着・解散） 現地9時～12時  
市役所に集合し、乗り合わせで車の台数を減らしていきます。
- 《対 象》 友の会会員（小学4年生以上）  
徒歩で3時間以上歩ける体力のある方
- 《募集人員》 会員 15名 定員になり次第締め切ります。
- 《講 師》 岡本学芸員 長沢顧問
- 《参加費》 無料（乗り合わせ車代別途）
- 《持ち物》 防寒具（手袋など予備も） サングラス 行動食 飲み物 スノーシュー（貸し出しが必要な場合は申し込み時に申し込み かんじき可）  
筆記具 双眼鏡（ある人）、ほか各自必要とするもの。足回りは、登山靴などで固めの靴が歩きやすい。
- 《申し込み》 1月8日（木）から2月8日（日）まで 先着順  
電話・FAXまたは直接、友の会事務局へ  
（Tel/Fax 0261-23-6334） 連絡先もお知らせください
- 《当日連絡》 090-1217-9197（丸山卓哉 担当役員）



## 令和8年度山博友の会 総会・講演会のお知らせ

### 講演会

共催 大町山岳博物館

### 「大北地域の近現代史について(仮題)」

木曾寿紀さん(松本文書館 専門員)

総会にさきがけ、記念講演会を行います。

今回講師としてお招きする木曾さんは白馬村出身・在住で、松本文書館の専門員としてご活躍されています。現在、木曾さんが執筆して「大糸タイムス」紙上に連載中の記事に関する内容を含め、大町市や北安曇郡内の大北地域における近現代史にスポットをあててご紹介いただきます。講演を通して、自分たちが暮らす地域の歴史への理解をさらに深められたらと思います。

《期 日》 2026年4月12日(日) 午後1時30分 ～ 3時

《場 所》 山岳博物館 講堂

《講 師》 木曾寿紀さん(松本文書館 専門員)

《参加費》 無料

《申込み》 要事前申し込み不要 当日、会場へ直接お越しください。

※会員以外の一般参加もあります。また、お知り合いをお誘いいただければ幸いです。

### 友の会総会

講演の後、令和8年度総会を行います。2年後の友の会50周年に向けて、友の会の今後を考え、友の会の活動をより有意義にするために、ぜひ多くの方にご出席いただき意見を交換いただきたいと思います。

《期 日》 2026年4月12日(日) 午後3時30分 ～ 4時30分

《場 所》 山岳博物館 講堂

《内 容》 令和7年度の事業報告・決算報告 令和8年度の事業計画・予算案その他、会員からの提議に関する協議・決議

期日が近づきましたら改めてご案内の予定ですが、カレンダーに○をしておいてください。

### 研究報告会&座談会「山のサイエンスカフェ in さんばく2026」

2026年3月8日(日) 午後1時30分 ～ 4時

山岳博物館 講堂 参加無料 友の会の協力で行われます。

《申込み》 事前に電話・FAX・Eメールまたは直接、博物館へ



**報 告** 『善光寺街道を歩いてみようⅤ～北国西街道編(第3回)』

《期 日》9月20日(土) 8時～15時30分

《場 所》北国西街道 桑原宿～稲荷山宿～篠ノ井宿～丹波島宿

《天 候》曇り 《参加者》13名 《講 師》清水隆寿さん

- ・2023年 北国西街道編第1回として松本宿～岡田宿～刈谷原宿
- ・2024年 第2回目 会田宿～青柳宿～麻績宿
- ・2025年の第3回目は桑原宿～善光寺手前の丹波島宿まで

計画した当初は3回で善光寺まで歩く予定でしたが、時間的に善光寺は少しゆっくり歩きたいということで、来年善光寺だけで1回計画することになりました。また来年を楽しみにしてください。



8:00 大町市役所を出発～9:15 聖湖でトイレ休憩

聖山から聖水を汲んで1滴もこぼさずに持ち帰り雨ごいをしたという話が残っているそうです。また聖山には数少ない一等三角点があるそうです(宮澤さんから説明がありました)。



9:30 バスに乗車～9:50 桑原宿到着

桑原宿では姨捨正宗で有名な長野銘醸の前を通り和田家、松代藩の口留番所跡などを見学しました。

桑原というのは雷の災厄を避けるための呪文として使われています。菅原道真が大宰府に左遷されて亡くなったあと各地で落雷の事故が続発し道真の祟りだと恐れられましたが、彼の所領であった「桑原庄」だけは一度も落雷がなかったことから、人々は「くわばら」という



言葉を唱えることで雷をさけることができると信じるようになったという話を講師の清水さんから教えていただきました。

10：28 バスに乗車～10：40 稲荷山無料Pでバスを降りて稲荷山宿を散策

宿場の特徴でもあるクランクのところに清水さんがぜひ見てもらいたいと言っていた「松葉屋」という旧料亭の建物が残っていて、当時さぞ賑わっていたのではと想像できました。またもうひとつ清水さんが見てほしいと力強く押していたのが、松葉屋のクランクから正面に冠着山が見えるように当時の人が考えつくして街づくりをしていることです。本当にまっすぐな道の正面に冠着山が見えて、冠着山（姨捨山）は人々の信仰の山だったんだな～と感じられました。

バスに戻る途中で歴史を感じる田中園というお茶屋さんでそれぞれおやきを買わせていただきました。ほぼ私たちが買い占めてしまったみたいでした。バスの中やその周辺でお昼ご飯にして、各自お弁当やおやきをいただきました。

11：50～稲荷山宿を再度散策

歴史を感じる洋館風な建物の菅谷医院を見学、こちらは前の松本市長の菅谷さんのご実家でした。

西京街道道標や稲荷山宿本陣の松本家等の見学をして12：25 バスに戻りました。

12：30～バスで篠ノ井宿を通る

篠ノ井宿は幕府から認められた宿場町ではなく、丹波島宿と屋代宿との間の宿です。今では住宅地で、言われてみればなんとなく宿場町だったのかな～と思える跡はありました。バスの運転手さんが事前に調べてくださっていて「篠ノ井追分宿跡」という石碑のところでバスを降りて見学させていただきました。

13：15～丹波島宿を散策

丹波島宿本陣の柳澤家や屋根に鐘馗（しょうき）様が祀られている家を探しながら散策し、13：35 バスに戻る。

丹波の渡しではモニュメントの前で一度バスを降り、昔は犀川に船を並べてその上を人々が歩いて渡ったという説明を受けました。モニュメントには船の上にロープを張ってロープを引っ張って川を渡った絵が描かれてい



ましたが、その前は船を並べて渡っていたそうです。

ここで今回の見学はすべて無事に終わりました。予定よりも早く終わりましたが、雨の心配もあり帰路につきました。

14：20 中条道の駅で買い物・トイレ休憩

14：50～大町市役所にむけて出発

15：30 大町市役所着 無事解散

このシリーズの最初から講師を引き受けて下さっている清水さん、椎間板ヘルニアをおしての講師ありがとうございました。

また、今回のやまびこ交通の運転手さんは中学生の時に友の会の行事に参加した事があるそうで、私たちのわがままにも丁寧に対応していただきました。なによりも事前に北国西街道の勉強をされたとお聞きして感動しました。

ありがとうございました。

(担当役員 川崎 晃・川崎祐子記)

## 【感想文】

### 「善光寺街道を歩いてみよう ～北国西街道編（第三回）」に参加して

辻 亘

令和5年度から数えて3回目となるこのイベントに今年も参加させて頂いた。街道の往時を偲ばせる面影を訪ね歩く企画はとても楽しく、過去の回でも青柳宿の切通し、会田宿の常夜灯、立峠の岩井堂、峠から続く斜面に沿って整備された刈谷原宿の景観など、印象深い。今年も北（善光寺方向）を目指しながら幾つかの宿場を回り、心に残る景観と出会うことができた。いくつか項目を追いながら振り返りたい。



毎回思うことだが、やっとのことで峠を越えて次の宿場が見えたとき、当時の人々はさぞ安堵したのではなかろうか。今回は聖湖近くの猿ヶ馬場峠を過ぎてからバスを降り、徒歩で桑原宿に下る途中、街道からは善光寺のある長野盆地まで広く見通せた。辺りが暗くなりかけた時間帯であれば尚のことと思う。たどり着いた桑原宿から振り返ると、越えてきた猿ヶ馬場峠が高く遠くに見えていた。

次に、宿場町の形態として頻出するキーワード「クランク」について。今回も沢山のクランクを通過したが、中でも稲荷山宿では南北に延びる宿場町の中央にクランク（鍵の手）が配置され、その北と南にメインストリートが伸びる分かりやすい形態が

印象深かった。南には街道の延長線上まっすぐ先に姨捨山が見通せ、もともとから計画して道を敷いたのだと納得。ちなみにこの宿場では思いがけず発見したお茶屋さん（田中園）で美味しいおやきを購入。こういうのもぶらり歩きの良いところ。



街道歩きでは宿場の古い建物を観るのも楽しみの一つ。今回は稲荷山宿の旧呉服商・山丹が、個人的に気に入った。母屋に併設された蔵は重厚な耐火構造とのことで、“でん”と構える存在感に圧倒された。また、丹波島宿の建造物に付随した小さなキャラクター・鐘馗（しょうき）さんも推したい。沖縄の家の屋根に乗っかっているシーサーさながら、家の屋根の上にちょこんと立ち、なんでも宿場に入ってくる邪気を追い払うのだとか。撮った写真を拡大してみたところ、鐘馗さんの足の下にはしっかり邪気が潰されていた。遠目でみるとユーモラスな感じのする像である。



最後に、今回も解説員として同行いただいた清水さんから興味深い話がたくさん聴けた。中でも善光寺と大町の木に関する話は印象深かった。かつて大町の前越平にある木材が善光寺の建築に使用される計画が上がったが、材木置き場の火災で木材の調達が困難となり、代わりに佐久から木材が供給されたという話。「もし大町の木が善光寺に使われていたら鼻高々だったのに！」という清水さんのコメントも合わせると、つくづく惜しいことをしたものだと思い、とても残念！

来年はシリーズの最後を締めくくる善光寺に一日特化した企画になるとのことで、今からとても楽しみ。必ず参加して、シリーズコンプリートを目指したいと思う。



## 報 告

## 山の子村の一夜 その2

《期 日》7月20～21日（日/月祝）

《場 所》山の子村

《天 候》晴れ

《参加者》11名

## 【感想文】

## 日記 山の子村キャンプ

五十嵐柁平

七月二十日 日曜日

この日は大町山岳博物館友の会の人と

おじいちゃんで鷹狩山に、

月曜日までキャンプに行きました。

一緒に行く人に犬もいました。

ご飯まで時間があつたので、

他の人と山に探検に行きました、

探検に行ったら地面からセミの幼虫が  
出てきました。

そのまま木に登るまで観察をしていたら、

もう行くかと下に降りて、

待っていたらおじいちゃんが、

魚さばいてみると言ってきて

僕がさばいてみたら、最初はなれなくて

難しかったけど、

何回かさばいているうちに慣れてきました。

魚を焼いているうちにカレーを作ってくれました。

カレーを作っている間に犬と遊んでいました。

ご飯ができたのでみんなでご飯を食べました

その後は腹ごなしに山にみんなで行きました。

セミの幼虫は木の上にはいたけどわからなくなっちゃいました。

その後山を降りて星を見に行きました。

その後はコテージで寝ました。

次の日は鷹狩山に登山に行きました。

犬と隣で山を登りました。

頂上の展望台まで行って下山したら、家に帰りました。



## 企画展 「大町にも火山灰が降った?!」

標記企画展が竹村専門員が中心となって 12 月 7 日まで行われた。

大町でも山に入ると赤土が厚く堆積しているのに会うことがある。旧大町スキー場周辺を模式地としたこれらの地層は、「大町テフラ層」と呼ばれる、地質ではちょっと知られた火山灰の堆積の露頭である。竹村専門員の調査の成果(ホームページより紀要を参照ください)が今回の企画展となった。



企画展ではミュージアムトーク(展示解説)の他、実際にフィールドに出て地層を観察して試料の採取が行われ、また、試料から鉱物や火山ガラスを洗い出すワークショップも行われた。

展示は、火山の種類など基本的な地質の話から大町テフラの様子、それがどこから飛んできた火山灰であるかなど、地層の剥ぎ取り標本や実体顕微鏡による鉱物の観察体験を含めて行われた。

10月18日に行われた現地見学会では、あらかじめ専門員が地層にラベルを付けられており、槍ヶ岳辺りの縦沢岳から飛んできたと言われる A 層、噴出起源不明の B・C 層、立山起源の D・E 層、そしてその上に山陰や鹿児島から飛んできた火山灰層が一目瞭然(? 一様に赤土ではあるが)であった。もちろん、専門員によって詳細に調べられた結果による。採取してみるとその感触の違いも分かったと思う。



11月22日には山岳博物館で室内講習会が行われ、16名が参加した。火山灰の試料を洗うため



のボウル、水、バケツ、8種類ぐらいの火山灰、一人一台ずつ顕微鏡が用意されていた。竹村専門員からお話を聞いたあと、好きな火山灰をボウルにとり、指でつぶして水を注ぎ、上澄み液が透明になるまで根気よく何度も水を取り換えて鉱物を洗い出した。顕微鏡で見た鉱物は噴火の種類によりそれぞれ粒の大きさが違ったり、ガラス質のもの、石英、角閃石、磁石にくっつく磁鉄鉱など、カラフルで言葉を失うほどきれいで、みんな真剣に取り組んでいた。

【寄稿】

## 初めての白山

2025年7月24日（木）～26日（土）

常山 幸子

## 活動データ

登山1日目：7/25

合計6時間54分 距離6.4km

休憩1時間43分

のぼり1268m くだり76m

7:45 スタート（別当出合登山口）

11:05 甚之助避難小屋

11:31

13:07 黒ボコ岩

13:21

14:00 白山奥宮

14:39 ゴール（白山室堂）

登山2日目：7/26

合計4時間57分 距離5.0km

のぼり28m くだり1218m

※朝食前にお池めぐり

8:00 スタート（白山室堂）

8:22 黒ボコ岩

8:35

9:41 甚之助小屋

9:46

12:57 ゴール（別当駐車場）

## 活動詳細

&lt;目的&gt;

- ・高山植物の宝庫で植物観察をする。
- ・70代のメンバーで安全登山をする。
- ・白山山系を体感する。



「常山さん、白山に行かない？」という有川さんからの嬉しい声掛けから白山登山は始まった。綿密な登山計画の作成（有川美保子さん）、切符・宿手配（丸山優子さん）、資料作成（宮澤陽美さん）。常山は全員無事白山に登り、下山してくる事の担当。梅雨も明け、天候にも恵まれ白山山系を満喫。皆さんに支えられ、充実の山行だった。

事前の打ち合わせ、事前の光城山・長峰山登山も安心感につながり、よかった。私以外の三人はさらに念のためにと爺ヶ岳の石畳まで歩いて白山に備えての本番だった。

白山は717年、僧泰澄によって開基され、わが国でも最も早く開けた山の一つで高山植物の宝庫。一度は登りたいという人は多い。白山は昔から人々に親しまれていたということが山道を歩いていると感じられた。山道のつくりやメンテナンスが登り下りする人々への配慮があり、嬉しい。

&lt;登山一日目&gt;

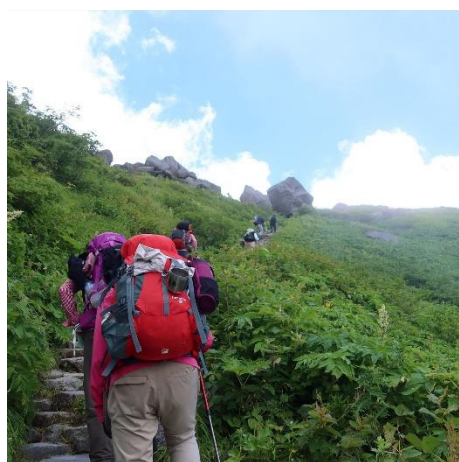
松任駅近くのニュー松任ターミナルホテルに前泊。5時30分発の一ノ瀬行きの登山バスで終点まで、そこからシャトルバスで別当出合（1260m）。

砂防新道で中飯場を目指す。ヤマアジサイ、ノリウツギ、ウバユリが私達を迎えてくれた。センジュガンビの白が美しく目立った。

不動滝を眺め、樹木がシラカバからダケカンバに変わり、オオシラビソも目立つ亜高山帯をさらに登っていくと甚之助小屋に着く。ここにもトイレがあり、水も補給できた。

南竜分岐までは道が急になってきた。ヨツバシオガマ、イブキトラノオ、ヤマハハコなど高山植物が増えてくる。途中で話しかけてくださった白山でガイドをしているという方にすすめられてサンカヨウの実を食べてみると、酸っぱかった。

登っていくと身体も疲れてくるが、それ以上に豊富な高山植物に心が躍る。右手の沢には水が流れ、その冷たさが



美味しい。何度も喉を潤し、延命水を何度も飲んだから何歳まで生きるんだろう……なんて冗談を言いながら十二曲がりに登る。すると、正真正銘の延命水があった。高山植物を愛でながら黒ボコ岩に着く。

英気を養って、弥陀ヶ原の木道を行くと、山頂付近が見えてくる。最後の五葉坂を頑張って登る。ハイマツが茂る森林限界を登りきると、白山室堂（2450m）。赤い屋根の建物が何棟も並んでいる。そこの御前荘が今夜の宿。

「白山の花図鑑」、「白山・立山花ガイド」で今日観察できた花の確認を四人でした。たくさん出会った高山植物の中でも特にハクサンコザクラとイブキトラノオの群生が心

に残った。その後、優子さんに誘われて四人で「卓哉さ〜ん。」と、ライブカメラに手を振った。登山中も位置情報で私達を見守ってくださって感謝。

宿舎、トイレ周りなど清潔感があり、気持ちよく過ごせた。夕食は特に味噌汁を美味しくいただいた。完食で翌日に備えた。一つだけ残念



だったのは水場の使い方。残飯がそのまま流しに放置。利用者のマナー向上は必須だ。

白山郵便局が開設されていたので絵葉書を購入し、特製スタンプを押して、三人の孫達に送った。

白山郵便局が開設されていたので絵葉書を購入し、特製スタンプを押して、三人の孫達に送った。

ベッドは上段だったけど一人でゆったり使わせていただき、熟睡。

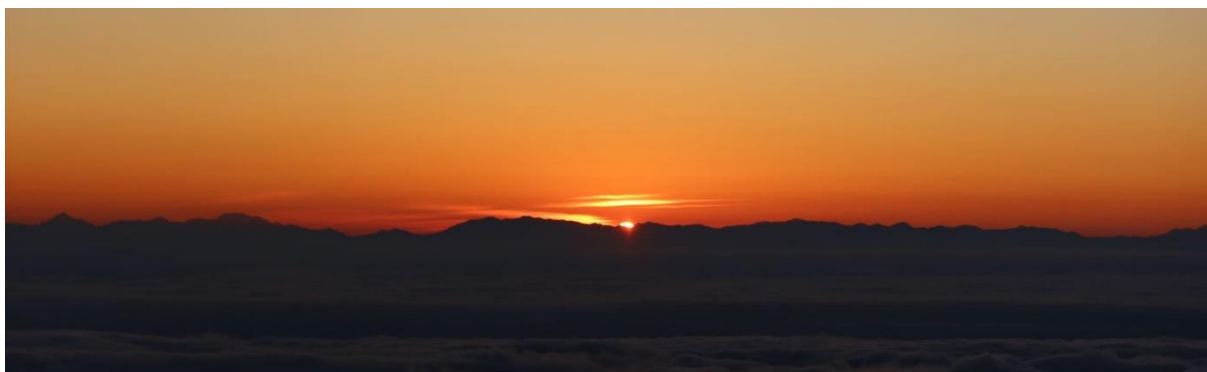


### <登山二日目>

二時半、起床。支度をして外に出ると、まだ星がきれい。新月で金星が一段と輝いていた。

ご来光を拝むために御前峰を目指した。徐々に東の空が明るくなってくる。道の脇のウラジロナナカマドの葉の裏が白く浮かんで見える。





山頂に着くと、かなり明るくなっており、御嶽、乗鞍、穂高・・・360度のパノラマ。大勢の人々が固唾を飲んで見守る中、水晶岳と薬師岳の間から太陽が昇る。バンザーイ！（私たちは宮司さんからご指南いただいたように手のひらを向かい合わせて腕を伸ばす。宮司さん曰く「手のひらを前に向けて腕をあげると、降参ということ。」）



大汝峰とのお池めぐりでは、ハクサンコザクラ、ミヤマキンバイ、コイワカガミ、チングルマ、ハクサンチドリ、アオノツガザクラ、イワギキョウ、ハクサンシャクナゲなど多くの花に出会えた。待望のミツバノバイカオウレンの花も写真におさめることができた。

途中、ガイドさんの千蛇ヶ池の言い伝えを興味深く聞いた。夕陽が沈む頃行けば、血の池と言われるわけが分かるという。そのタイミングでそこから剣ヶ峰を眺めてみたい。途中残雪の上を歩いた。雪解けしたばかりの所にコバイケイソウの芽吹き、とてもかわいい。白山室堂に着くと、イワギキョウの群生がきれいだった。もう一週間後に来たら、クロユリの花の大群生も見られそう・・・



朝食をいただき、お弁当をもらって下山準備。予定していた観光新道は崩れている所があるという情報があったので、安全第一で砂防新道を下ることにした。

同じ道でも登りと下りでは、ずいぶん景色が違う。見落としていた、オオバミゾホオズキの花も見つけた。登りよりずっと快調に下山。バスのタイミングも良く、スムーズに金沢駅に到着。

憧れの白山に楽しく行てくることができた。天候にも恵まれ、今回の山行の三つの目的も十二分に達成できた。

白山の冬は長く厳しいからこそ美しい花々をたくさん咲かせてくれる。でも、白山の山容は包み込むように優しくかった。

12月9日、「カフェ風のいろ」でハバキヌギ（脛巾脱ぎ：長い旅の終わりを祝い、無事を喜び合うための打ち上げ。わらじぬぎという所もある。）をした。

そこで出された話を三つ書きたい。

登山途中歩けなくなった人に会った。その人は足がつるといけないと思い、登る前から「芍薬甘草湯」（ツムラ番号68番）を飲んで登ってきたそうだ。薬は正しい使い方をしないといけない。

差し上げた梅が効いて歩けるようになったかは不明。

リュックの背負い方。背負う位置とチェストストラップの締め方でずいぶん楽になったという話があった。

田中澄江さんが「花の百名山」の中で白山に登る前に温泉に泊まったと書いてあり、私たちが松任ではなく温泉泊がよかったとも思ったが、そのおかげで若者二人と不思議な出会いが



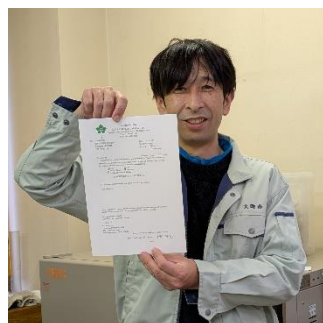
あった。一日目出発のバス停で最初の出会い、夕食で偶然にお隣同士。下山では中飯場で一緒にお昼、あまりの偶然に話も弾み、一緒に写真撮影。そして最後は白山駅でもばったり。私たちの旅に彩を添えてくれた。

写真は優子さん、植物観察記録は美保子さん、陽美さんからは内福薬「笑薬ワラエール」をいただき、私たちのハバキヌギは終了。

ありがとうございました。機会があったら、また一緒に山に登りたいです。



高知県立牧野植物園から標本 200 点が届いた、お披露目会があるというので取材させてもらった。山博は現在、高知県立牧野植物園と交換標本を行っている。他地域の植物を理解する上で有効な手法であるほか、他地域の貴重な標本をリスクヘッジと言って分散させて災害時などに失われてもどこかに残るようにとの対策も一つの考えとのことで、重複標本を交換している。標本庫に入れるため、到着



するとすぐマイナス30度の冷凍庫に入れ、防虫対策をする。それを解凍したところでお披露目された。初めて見る近畿以西の植物や、県内にも産する植物との比較を藤田淳一先生に楽しく解説していただきながら一つ一つ確認した。200 点のうち 100 点は豊科郷土博物館に収められる。(12月14日)



## 烏帽子の会

### 活動報告 《<sup>かなとこやま</sup>金戸山》

《月日》9月28日（日） 《天気》晴 《参加者》13名

#### 《コースタイム》

8:30 新山清路駐車場集合～9:00 出発～9:20 展望台秩父34番石仏～9:40 金戸山登山口～9:55 東屋休憩～10:05 出発～10:35 避難所昼食 11:20 出発～11:30 山頂着～11:50 下山～12:30 駐車場着



#### 《コース状況・その他周辺情報》

駐車場が分かり難かったのか集合時にハプニングがあった。

展望台への道は少々急な階段だが、展望台からは犀川の深い緑色の流れや向いの猿飛岩が望まれ絶景が広がる。三十四番のまがい仏や多くの石仏が見られ興味深い。

金戸山の登山道はゆるやかな登りで道も分かり易い。避難所より上は荒れている所もあり、山頂まで800mが少しきつい。うっそうと茂る木々は紅葉の時期はさぞかし見事だろう。山頂直下の坂東三十三番札所のある観音谷の石仏群は見ごたえがある。山頂は三角点と木に小さな「金戸山」の木札のみ。

下りは鷲の宮方面へジグザグの急な下りを40分、駐車場に到着。



#### 《感想》

天候に恵まれさわやかな秋空の下で比較的簡単に登れるのに里山の魅力を満喫できた山歩でした。「紅葉の時に又来たいね」の声も多く聞かれました。本格的な山登りは無理かなという年齢になりましたが「烏帽子の会」の素晴らしい仲間を支えられて、小さな無理はしても大きな無理はせずに自分の体力に合った山歩きを楽しみたいと思います。

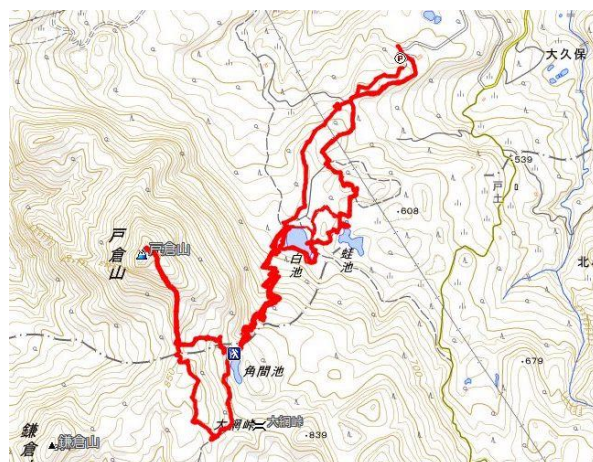


## 活動報告 《静寂と紅葉に包まれた戸倉山トレッキング》

《月日》10月31日（土） 《天気》曇り 《参加者》15名

### 《コース状況》

登りの標高差は530m、歩いた距離は6.4km、行動時間は休憩を含み5時間45分。戸倉山から大網峠に向かう道など分かりにくい箇所も一部あるが、全体的に危険箇所も無く、歩きやすいコースだった。



### 《コースタイム》

7:00 大町市役所発～ 9:00 登山口発～ 9:35 白池着～ 11:30 戸倉山山頂着～ 12:20 昼食後 出発～ 12:55 大網峠着～ 13:40 白池着～ 14:45 蛙池経由登山口着～ 16:40 大町市役所着

### 《感想》

低気圧の影響で夕方から雨の予報が出ていたが、山の天気予報では日中は曇りとのこと。迷った末、白池の森駐車場からの戸倉山周回ルートを決行した。天候のせいかな登山者の姿はなく、静かな山歩きを楽しむことができた。

白池の森駐車場で支度を整え、ストレッチを済ませて出発。紅葉に彩られた白池を經由して、角間池を目指す。時折、強い風が梢を揺らす。角間池からは、いよいよ戸倉山への登りが始まる。途中、展望の開けた場所では思わず足が止まる。色づいた山々の向こうに冠雪した雪倉岳、朝日岳が美しく浮かび上がっていた。

山頂に着くと、ザックを下ろすのも忘れるほどの景色が広がっていた。360度の眺望が広がり、冠雪した北アルプス、雨飾山と焼山、海谷山塊、姫川が流れる糸魚川市とその先の日本海、明星山など、見渡す限りの山々と海が織りなす景色に大満足。吹いていた風も次第に弱まり、寒さもさほど感じず、貸し切りの山頂で昼食をとりながら、たっぷり大休止をとった。

下山は道標のない分岐から大網峠方面へ。ブナの木にペイントされた丸印を頼りに進む。色づいた美しいブナの森の中をアップダウンしながら歩いていると、突然「塩の道」大網峠に出る。白池と大網峠の間は、かつて塩を運んだ千国街道、通称「塩の道」である。今回は塩の道ガイドでもある澤度さんに同行いただき、ポイントごとに説明をして



いただいたことで、歴史にもふれながらの充実したトレッキングとなった。

大網峠からは白池まで一気に下る。ひと休みした後、白池の周囲を歩き、蛙池方面の分岐へ。紅葉した森がエメラルド色の白池に水鏡となって映り込み、息を呑む美しさ。思わず皆が写真を撮る。そんな寄り道をしながら、秋の自然をたっぷり味わう一日となった。

## 戸倉山例会山行感想

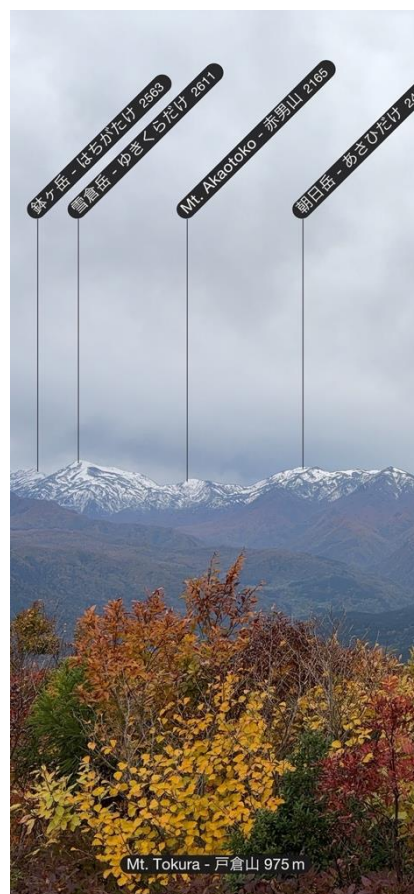
阿久根義宏

空は一面の曇、風も吹いて幾分登山意欲を削がれる様な天気だったが、山頂近くになって景色が明るく変わった様な気がした。天気が良くなったわけでは無いのだが一面の樹々が何故か輝いている様に感じたのだ。更に間も無く山頂に着くと遠くに見えている山々がハッキリと見えるではないか、展望は期待していなかっただけにとても感動した。糸魚川市内と日本海、目の前には雨飾山、雪を戴いた雪倉岳とその周辺等、稜線が雲に遮られていない大パノラマが広がっていた。

大町を出て約 2 時間余り糸魚川の戸倉山登山口に着いて曇り空の下、軽く体操をして出発、道々塩の道の生き字引でもありその小谷塩の道の会では会長も務めておられる澤渡さんの実に蘊蓄のある歴史的な事柄も含め今日の行程に含まれる塩の道の事、遠い昔の諏訪大社に繋がる事など興味深い話を聞かせていただき何も知らずにただ通り過ぎてしまいがちな道の深さを感じさせられるひと時だった。

山頂での昼食と憩いの後、下山は途中ブナの林の中を気持ち良く歩きクロモジの枝を折って香りを確かめたり随所に現れる池の水面の色や対岸の樹々を鏡の様に映している光景そして山全体を覆う紅葉に、しみじみとこうして山を歩く楽しみを改めて感じた 1 日だ。

同行した皆さんもきっと同じ様に感じたと思う秋の楽しい山行だった。



## 活動報告 《花岡城址コース》 追加報告

《月日》6月14日（土） 《天気》曇のち雨  
 《参加者》19名 総会のみ参加5名 計24名

### 《コースタイム》

仁科神明宮駐車場発 9:00～池田町堀之内堂庭発 9:25～花岡城跡 10:10～鉄塔 79（記念写真）  
 10:25～沢越え 10:45～大町市山の寺～大町市・池田町境 11:00～MOFU ぷちファーム 11:10～  
 常山宅 11:15

当初は、堀之内堂庭から、ショートステイ花梨の東側南沢から登り、昔の善行寺道を通り、池田町の七色大カエデを過ぎ、どんぐり池の側の大峰キャンプ場でバーベキュー・総会。帰りは北アルプスがよく見渡せるようになった演習林脇を通り、花岡城跡を下って、堂庭にもどる5時間程度のコースを考えていたのですが、生憎の雨模様だったので、急遽「花岡城跡コース」に短縮実施しました。



心配していた雨もたいしたことなく、滑りやすい道やちょっとした沢越えも、さすが皆様難なく通過。登りながら、熊笹の花、子熊の糞などの観察。花岡城跡、仁科一族堀之内氏の山城。不整な円形の主郭と南方にのびる尾根先に副郭、空堀や曲輪もはっきりとわかる。

山の寺集落で住民の方に声を掛けられた、「熊に合わなかったかね。それはよかった……」と。

東山山麓のアルプス展望の道でちょうど針ノ木岳が見えなくなる池田町と大町市の境を超え、MOFU ぷちファームで羊を見て常山宅へ。

朝からバーベキューセットを全部ご持参くださった有川さんご夫妻、雨に打たれながら肉を焼いてくださった中山さん、キャンプ場の下見からばっちり備えてくださった仙波さん、急遽焼肉担当に専念してくださった若林さん。

運動して小腹の空いた会員一同、おいしいバーベキューに舌鼓。お野菜たっぷりの山菜汁もお腹にしみました。ありがとうございました。

今回、担当になり花岡城跡について調べる中で、「堀之内は古代から実り豊かな土地で縄文・弥生・古墳時代からの遺跡や古墳があり以後もずっと村屋があり続けたところである。」という文に出会い、この地についてももう少し詳しく知りたいと思いました。



次回は1月24日（土）に「池田町大峰高原 スノーシュートレッキング」を実施します。カミツレの里から大カエデ、白樺の森キャンプ場をめぐる予定です。（サークル人数が多くなったため、烏帽子の会の新規募集はしていません）

事務局

## ボランティアサークル

### 群馬県立自然史博物館で研修しました・・・

今回、日頃博物館に関わりいろいろなお手伝いをしてきたボランティアの研修と慰労を兼ねて群馬まで足を延ばしました。

まず“ながいながい骨の旅”という企画展を展示解説員さんのガイドでまわらせてもらいました。海で一つの細胞から進化した生物の歴史を脊索→背骨という骨の進化の観点から眺めた企画展でした。海では重い身体も浮きますが、それに比べ陸に上がると自分の**体重を支える背骨が必要です**。もう一つ、海ではぐくまれた生命の誕生から陸に上がって生きられるようになるためには我々は体の中に“海”を取り込んだということです。何を言っているかわからない？ 骨とは「**カルシウムの貯蔵庫**」大切なカルシウムを余分な時は貯めて、足りなくなったら溶かしだして使うことができる場所なのです。また骨のもう一つ大事な役割はなんと「**血液を作り出す工場**」だということです。血液の中にはナトリウム、塩素、カリウム、鉄など海と同じ成分が入っています。骨にもカルシウム、リン、マグネシウムなど海に溶け込んでいるミネラルが含まれています。生物が生きるためには**海を体の中に取り込んだ“骨”**が必要なのです。

博物館と言えば来るたびに新しい発見がある知的な空間です。それはどんな小さな博物館にでも言えることですが、展示する側は創意工夫をして人を惹きつけるわけです。今回お邪魔した博物館の常設展示(138億年はるかなる旅)の目玉は、“ガラスの床を用いた発掘現場の再現と標本保存”、“巨大恐竜全身骨格3体とT-Rexの実物大の動く模型”、“ブナ林のジオラマは実物大の樹木にレプリカの葉”を使っている、“Dコーナーの人類の展示”とのことです。2階まである常設展は本当に見切れないほど盛りだくさんの収蔵物、展示物でした。自然史というテーマは生物、植物、地球科学と多分野にわたった壮大なもので興味のつきないものです。また行ってみたいなと思いました。

午後には館の方からレクチャーを受けました。館の問題点としてトイレの数が少ない、食事場



所がない、アクセスが悪い(公共交通機関で来館できない)などを挙げておられました。それぞれ悩みはあるわけです。ボランティアの組織は学芸員のサポートとして“資料収集、採集物の標本化、企画展のサポート、共同研究、研究補助”などで、博物館のあるべき姿だなど思いました。今後、私たち友の会のボランティアの方向性の参考にしたいです。

往復のバスの中で岡本学芸員が“日本の動物相”というテーマでレクチャーしてくれました。

日本は小さな国だけれど大国並みに南北に長く、温度差が大きく降水量が多いため、多様な環境があるのでいろいろな生物が生きやすい。河川の分断、また各山岳、島など孤立した場所で進化した固有種が多い。またブラキストン線という、北海道と本州を分ける境界線のお話は初耳でした。北海道は寒冷的なせいか、本州とは違って動物相は単調だそうです。

帰りは博物館のライチョウの現状や今年で中央アルプスでのライチョウ保護はなくなり、来年以降は数の増え方によっては絶滅危惧の段階が下がるなどのお話を聞きました。

丸山優子

ボランティアサークルへのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで



### ゆきつばき通信編集室より

今回のゆきつばき通信は来年のご案内になります。報告も盛りだくさんあります。常山さんからは山行の報告をいただきました。五十嵐君からは行事の感想をいただきました。ありがとうございます。

2025年、博物館も暖房や冷房の故障などいろいろありましたが、しばらく休館にしてリニューアルをして新年を迎えます。寒い時期ですが、また、足を運んでいただければと思います。

迎える年が皆様にとって良い年になることをお祈りいたします。

（編集担当：丸山卓哉 投稿先：takuya-m アット junno.ocn.ne.jp）

### ご案内

大町山岳博物館の本館は、空調設備工事のため令和8年1月26日（月）まで臨時休館しています（工事の状況等により臨時休館期間が変更となる可能性があります）。併設の付属園は、毎週月曜日（月曜日が祝日のときは翌日）と12月29日～1月3日を除き、開園しています。

また、3月まで開館時間が冬期時間となっています。

本館・・・開館時間：午前10時～午後4時（最終入館は午後3時30分まで）

付属園・・・開園時間：午前10時～午後4時

## ゆきつばき通信 第204号

発行／大町山岳博物館友の会 2025年12月20日

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

大町山岳博物館内 山博友の会事務局 Tel/Fax 0261-23-6334

山博ページ <https://www.omachi-sanpaku.com>

友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています

